

ATLDos Version 1.1.1

リファレンス

2002年6月

目次

1. はじめに.....	3
ATLDos とは.....	3
ATLDos コンポーネントのご使用上の注意.....	3
2. 改定履歴.....	4
3. 簡単な使い方.....	5
WSH の VBScript での例.....	6
4. メソッド一覧.....	7
Start メソッド.....	7
End メソッド.....	7
SendCommand メソッド.....	7
SetCallBack メソッド.....	8
5. プロパティ一覧.....	9
Version プロパティ.....	9
Sync プロパティ.....	9
CmdTimeOut プロパティ.....	9
Copyright プロパティ.....	10
ProductName プロパティ.....	10
6. イベント一覧.....	11
RecvPrompt イベント.....	11
7. ディレクトリ構成.....	12

1. はじめに

ATLDos とは

ATLDos.dll は、**ASP** の **VBScript** や **Visual Basic**、**EXCEL VBA WSH(Windows Scripting Host)**などから使える汎用のコンポーネントです。**DOS** コマンドプロンプトをバックグラウンドで実行しユーザが送信したコマンドの実行結果を文字列で返します。

ATLDos コンポーネントのご使用上の注意

- このコンポーネントを使用して発生した損害に関しては、一切の責任を負いません。
- 使用、配布に制限はありません。自由にお使いください。
- 動作の保証はありません。
- 動作を確認したOSは、**Windows 2000/NT4.0/98/98SE/ME** のみです。

2. 改定履歴

2001/12/16 Version 1.0 公開

2002/1/27 Version 1.1 公開

- ・ DLL 内部の文字列の扱いを変更しました。
- ・ プロパティを追加しました。(Copyright, ProductName)

2002/6/3 Version 1.1.1 公開

- ・ C/C++からも非同期モードを使えるようにするため **SetCallBack** メソッドを追加

3. 簡単な使い方

CreateObject メソッドで " ATLDos.CmdExec " という名前でオブジェクトを作成します。

```
Set obj = Server.CreateObject(" ATLDos.CmdExec ") ' ASP  
Set obj = CreateObject(" ATLDos.CmdExec ") ' VBA や VB  
Set obj = WScript.CreateObject(" ATLDos.CmdExec ") ' WSH
```

作成したオブジェクトでメソッドの呼び出し・プロパティの取得／設定を行います。

変数 = **obj**.メソッド名(パラメータ)

obj.プロパティ = 設定値

変数 = **obj**. プロパティ

WSH の VBScript での例

ファイル名 : sample.vbs

```
dim res
dim obj

set obj = WScript.CreateObject("ATLDos.CmdExec") ' オブジェクトの作成
obj.Start      ' DOS プロンプトの開始
obj.Sync = true      ' 同期モードに設定

res = obj.SendCommand("ECHO OFF")    ' コマンドエコーをOFFに設定
res = obj.SendCommand("DIR")        ' dir コマンド送信 (結果は変数 res に入る)

MsgBox res      ' 結果表示

obj.End        ' DOS プロンプト終了
Set obj = Nothing ' オブジェクト開放
```

テキストエディタ等で上記のファイル(sample.vbs)を作成しダブルクリックをすると実行ディレクトリの内容がメッセージボックスに表示されます。



```
VBScript
dir
ドライブ E のボリューム ラベルはありません。
ボリューム シリアル番号は D88D-A4BF です

E:\fcpp\ATLDos\sample\vbs のディレクトリ

01/11/26 09:17a    <DIR>          .
01/11/26 09:17a    <DIR>          ..
01/11/27 05:50p                408 sample.vbs
                 3 個のファイル      408 バイト
                 855,605,248 バイトの空き領域

E:\fcpp\ATLDos\sample\vbs>
```

4. メソッド一覧

Start メソッド

【機能】

バックグラウンドで **DOS** を開始します。

【引数】

なし

【使用例】

`Obj.Start`

【関連項目】

End メソッド

End メソッド

【機能】

バックグラウンドで実行している **DOS** を終了します。

【引数】

なし

【使用例】

`obj.End`

【関連項目】

Start メソッド

SendCommand メソッド

`outStr = obj.SendCommand(inStr)`

【機能】

バックグラウンドで実行している **DOS** にコマンドを送信します。実行結果は非同期実行モードの場合 **RecvPrompt** イベントが発行され同期実行モードの場合は返り値に実行結果が格納されます。

【引数】

inStr [in] 変換前の文字列。

outStr [out] 実行結果の文字列（非同期実行の場合は空文字が返ります）

【使用例】

```
outStr = obj.SendCommand("dir")
```

【関連項目】

Sync プロパティ・**RecvPrompt** イベント

SetCallBack メソッド

obj. SetCallBack (CallBack,Param)

【機能】

非同期モード時にDOSプロンプトからの結果を受け取るコールバック関数を設定するためのメソッドです。詳しくはサンプルをご覧ください。

非同期モードの時のみ有効です。

（注：C/C++用に用意されたメソッドです。VB等から非同期で結果を受け取りたいときは**RecvPrompt** イベントを使用して下さい。）

【引数】

CallBack [in] コールバック関数へのポインタ

Param[in] コールバック関数の引数パラメータ

【関連項目】

Sync プロパティ・**RecvPrompt** イベント

5. プロパティ一覧

Version プロパティ

【機能】

このコンポーネントのプロダクトバージョンを返します。(読み取り専用)

【引数】

なし

Sync プロパティ

【機能】

このプロパティを **True** に設定した場合コマンドの実行モードが同期実行モードになります。デフォルト値は **False** (非同期実行モード) に設定されています。

【引数】

なし

【使用例】

```
obj.Sync = True
```

【関連項目】

SendCommand メソッド

CmdTimeOut プロパティ

【機能】

同期実行モード時のキャラクタ間タイマーをミリ秒単位で設定します。デフォルトは **1000ms** (1秒) になっています。つまりデフォルトではコマンドを送信して1秒間連続して結果が返ってこない場合 **SendCommand** メソッドから制御が戻ります。

【引数】

なし

【使用例】

```
obj.CmdTimeOut = 3000
```

【関連項目】

SendCommand メソッド・**Sync** プロパティ

Copyright プロパティ

【機能】

このコンポーネントの **Copyright**（著作権）情報を返します。（読み取り専用）

【引数】

なし

ProductName プロパティ

【機能】

このコンポーネントの **ProductName**（製品名）を返します。（読み取り専用）

【引数】

なし

6. イベント一覧

RecvPrompt イベント

```
Private Sub obj_RecvPrompt(ByVal prompt As String)
End sub
```

【機能】

非同期モードで実行したコマンドの実行結果を受け取るイベントです。

【引数】

prompt [in] コマンド実行結果

【使用例】

【関連項目】

Sync プロパティ・**CmdTimeOut** プロパティ

7. ディレクトリ構成

通常インストール時のディレクトリ構成は下記のようになっています。

```
<INSTALL DIR>
  +--- ATLdos
    +--- bin      [コンポーネントDLL]
    +--- doc      [ドキュメント]
    +--- sample   [サンプルプログラム]
      +--- vb
      +--- vbs
      +--- vc
          +--- sample1 [同期モードのサンプル]
          +--- sample2 [非同期モードのサンプル]
```